



合唱は、みんなの心をひとつにすることが大切。練習・本番を通して、クラスの団結力は日に日に強くなります

文化祭はクラスの団結力を高め、生徒自身の表現力を育てるといって、非常に重要な意味のある行事です。また、文化祭本番だけでなく、その準備などの過程を通して一人ひとりの生徒が自分の役割を果たし、クラスや学校の一員として存在感ある活動をしていくと、たとえ願って取り組んでききました。

今年の文化祭のテーマは「心響」でした。一人ひとりが真剣に取り組む中で、観ている人の心に何かを訴えよう、響かせようという思いが込められています。このテーマのもと、約2週間の準備期間を経て、11月6日・7日に文化祭をおこないました。生徒は演劇や弁論、吹奏楽、轟太鼓等、様々な取り組みをしてきましたが、当日は笑いあり、涙ありの中身の濃い文化祭になりました。

文化祭に至るまでには、いろいろな苦労もありました。夜遅くまで残ってがんばった生徒会執行部。朝練をしながら取り組んだ有志演技。2週間ほどの短い期間でセリフやしぐさを覚え、た劇の生徒たち。背景や音響、道具など裏方にまわってがんばった生徒たち。本番当日に至るまでの様々な苦労や思いは、演じた生徒たちだけでなく、観ている人にも十分伝わったと思います。



恒例の人権劇。演じる生徒も裏方で舞台を支える生徒も、笑いあり涙ありの準備期間を経て、大きく成長し、観る人の心に強く響く素晴らしい舞台になりました



竹藪の中に人知れず流れ落ちる滝がありました

時には、ふるさとめぐりのガイドブックにまかせて歩いてみるのもいい。

『歩いてみよいや！光徳』が発刊されて3年目、今年も小竹・峯小竹のコースが設けられ、快晴に恵まれた10月31日、60人が参加しました。

子どもたちにふるさと光徳の良さを知ってほしい。ふるさとを愛する人になってほしい。ふるさとに自信と誇りをもってほしい。親子や家族で歩きながら、地域とのふれあいを深めてほしい。そんな願いをこめて編集された、約150ページの冊子『歩いてみよいや！光徳』は、前谷・木料・小竹・峯小竹・上坪ひかりが丘・下坪西坪・楽仙陣構の6コースにまとめられています。

小竹の村中を右に折れ、薬師堂の前を通り御経塚で西山教養

部長の説明を聞ききました。模造紙に分かりやすく図を入れた解説に感嘆の声。薬師堂に戻り、クイズの答えを班で考えます。班形式のクイズラリーにもなっている、小さな声で答えを確認しあう姿も。

武郷神社の70段の石段を登りきって、少し休憩です。サイの神を過ぎ、防火水槽の横のモリアオガエルが毎年産卵するという木を教えるもらいました。ここでも可愛いカエルの絵と解説が好評でした。

峯小竹のハス園では、ハスの花托の形がハチの巣に似ていることからハチス、それがハスと呼ばれるようになったことも学びました。峯小竹の両墓制にもふれることができました。

小竹へくだる坂の途中で休憩です。大きな竹藪の中に、小さな道らしきものがあり、順路を示すトラロープが張ってありました。転ばないよう、落ちないように、PTAのOBの小藪義信さんがセットしてくださいました。その小径を2メートルほど歩くと、左手に滝が見え、夏も枯れることなく流れ落ちて

名和つ子

学校から

いるとのこと。こんな竹藪の中に滝があることなど、あまり知られていません。

実際に歩いてみると、いろいろな発見や再発見があります。やはり百聞は一見にしかずです

ね。歩いてみよいや！光徳とても有意義な半日でした。教養部のみなさん、そしてOBの小藪さん、ありがとうございました。来年はどんなコースを歩きましょう。とても楽しみです。



普段何気なく通り過ぎていく場所に、様々な発見が！



竹藪の奥深く、道しるべの先に隠されていたのは…

歩いてみよいや！光徳

～小竹・峯小竹コースの半日～

光徳小学校